

5 月 2 日の電話会議での御質問への回答

1. 国土センターモデルとエクセルモデルで洪水の最後が違っていたことについて

電話会議で御指摘いただいた H19.9.11 0:10～、H10.9.20 0:10～ の国土センターモデルとエクセルモデルの違いについては、単純なデータの貼り付けミスでした。(国土センターモデルの方が誤りでした。)このため、別添資料 1 の修正版を送付させていただきます。申し訳ありませんでした。

その他に、国土センターモデルとエクセルモデルでは、入力データ(雨量、ダム放流量)の扱い方が異なります。具体的には、エクセルモデルは 10 分データの扱いが可能ですが、国土センターモデルは 1 時間データしか扱えないシステムとなっています。

2. 国土センターモデルにおける基底流量 Q_b の取り扱いについて

国土センターモデルのモデルパラメーター設定画面では、便宜上 $Q_b=0$ と入力し、 Q_b は別ファイルデータを読み込んで計算を行っております。

なお、国土センターモデルでは、 Q_b を水平分離法で一定値しか入力できなかったため、水平分離以外の方法により Q_b を設定した場合には、別ファイルで Q_b を設定できるように国土センターモデルのシステムの改良を行っていただきました。

3. 有効降雨作成時の累積雨量が飽和雨量をまたぐ際の処理について

エクセルモデルは 1 時間雨量を 6 等分して 10 分間雨量を作成していますが、 $\Sigma r(t)$ が R_0+R_{sa} に達した時点を含む 10 分間雨量については、IF 文を使って R_0+R_{sa} とそれ以前の $\Sigma r(t)$ との差分については f_1 を、残りについては 1 を乗じたものの和によって有効降雨を作成しています。一方、国土センターモデルでは、雨量を 1 時間間隔でしか入力できないシステムとなっており、エクセルモデルで用いた有効降雨を 1 時間単位で合算したものを入力しています。なお、エクセルモデルも国土センターモデルも流出計算の時間間隔は 10 分です。

4. 昭和 33 年 9 月洪水、昭和 34 年 8 月洪水におけるダム放流量の扱いについて

○旧モデルでは昭和 33 年 9 月洪水、昭和 34 年 8 月洪水時に運用しているダムについては、実績放流量を与えて流出計算を実施しています。

(昭和 33 年 9 月洪水: 藤原ダム、相俣ダム 昭和 34 年 8 月洪水: 藤原ダム、相俣ダム)

○新モデルで昭和 33 年 9 月洪水、昭和 34 年 8 月洪水の再現計算を行う場合の運用しているダムの放流量については、あらためて御連絡します。

5. エクセルモデルのニュートン法について

説明資料を作成の上、あらためて御連絡します。

6. 雨量データの日界が 10 時であることについて

ほぼ 10 時であると考えられますが、最終的にはあらためて御連絡します。

7. 昭和 22 年 9 月洪水の流域平均降雨データの算出について

昭和 22 年 9 月洪水の流域平均降雨データの算出につきましては、東京電力が観測している日雨量観測所の日界も含めて、あらためて御連絡します。